

かわまちづくり計画の構成

令和5年6月11日

「かわまちづくり」の取組みが登録されるために必要なもの

- 推進主体
- 河川管理者との協力関係
- かわまちづくり計画
- 推進主体の熱意！

かわまちづくり計画書の構成

1. 市町村等の概要

- 市町村等の概要及び市内の河川の概要

2. 水辺とまちづくりに関する基本方針

- 都市計画や公園計画など関連計画における河川の位置づけ、計画対象範囲、課題・必要性、基本方針、個別施策など

3. ソフト施策の個別施策計画書

- 河川名、施策の実施範囲井、提案事業の概要

4. 支援整備内容の概要

- 河川名、整備範囲、整備内容

5. ハード施策の個別整備計画書

- 整備内容名、整備概要、整備の必要性・有効性、整備の実現方策、推進体制、有効利用および維持管理、特徴

6. その他特筆すべき事項

- 様式以外の項目で、登録の必要性や有効性を示す事項を地域に応じて整理

(仮称)境川かわまちづくり

計画書

令和〇年〇月

浦安市

表紙例

かわまちづくり計画書の構成

1. 市町村等の概要

1. 市町村等の概要
①都道府県名：山形県
②市町村名：鶴岡市
③人口：127,558人（平成30年6月30日現在）
④面積：1,311.53km ²
⑤市の特色 鶴岡市は山形県の西部、庄内平野の南部に位置し、出羽三山、朝日連峰の山々と日本海の海岸線に囲まれ、日本有数の穀倉地帯である豊かな農地、田園が広がっている。また、赤川水系の赤川、大山川、最上川水系の京田川、藤島川等の河川が扇状地を形成しつつ、日本海にそそいでいる。市の区域は東西43.1km、南北56.4km、総面積1,311.53km ² で、総面積では東北地方で第一位の広さとなっている。 江戸時代に、譜代大名の酒井忠勝が庄内藩14万石の領主として入国、鶴岡を居城として城下町を整備し、現在の鶴岡の基礎が築かれ、また国指定史跡として東北地方に唯一現存する藩校「致

2. 市内の河川の概要
①主な河川 ●赤川（一級河川赤川水系、流域面積856.7km ² 、流路延長70.4km） 赤川は、山形県の西部に位置し、その源を山形、新潟県境の朝日山系以東岳（標高1,771m）に発し、大鳥池を経て溪谷を流れ、鶴岡市落合において右支川梵字川が合流する。さらに、広大な庄内平野を北へ流れ、鶴岡市を貫流し、左支川内川、大山川等の支川が合流して、酒田市南部の庄内砂丘を切り開いた赤川放水路により日本海に注いでいる一級河川である。 かつて赤川は最上川に合流していたが、度重なる洪水氾濫を防ぐため、大正6年に直轄事業に着手し、赤川を直接日本海に放流する放水路の開削工事を行い、最上川から分離し、独立した河川

②河川と市町村や民間事業者との関わり 赤川は鶴岡市を縦断するように流れ、帯状に緑地が形成されており、北に「秀峰鳥海山」、南には「霊峰月山」を望み、その周囲の山々と調和した豊かな緑の風景が見られる。市街地では赤川河川緑地、市街地周辺では櫛引総合運動公園などの大規模な緑地があり、陸上競技場、サッカー場などのスポーツ施設が整備されており、地域住民のレクリエーション利用や部活動での利用

③これまで実施済みの関連施策 ●赤川河川緑地 鶴岡市が昭和45年度から赤川左岸三川橋上流に市民運動場の整備に着手し、陸上競技場などが整備された。昭和48年度には、空間利用の一貫性をもたせた赤川環境整備計画を策定し、国土交通省の河川環境整備事業により、国土交通省で高水敷を修正し、鶴岡市が公園施設として順次整備を行った。 スポーツやレクリエーション、憩いの場として活用されており、夏には「赤川花火大会」の会場として利用され、毎年多くの人たちが訪れる。また、秋にはワイン祭りのイベントや、グループによる芋煮会の会場として利用されている。 ●櫛引総合運動公園 住民の健康体力づくりへの関心と欲求が高まっている背景を踏まえ、昭和63年から平成3年にかけて、住民の心身にわたる健康づくり、創造的文化活動など多目的に行うことができる総合運動公園が整備された。陸上競技場やナイター照明付きの野球場等、野球やサッカー、グラウンドゴルフ
--

④市民や民間事業者による河川利用状況 ・多くの運動施設のある河川敷では、様々なスポーツ大会や町内会等のレクリエーションの場として幅広く利用されている。 ・毎年8月に開催される赤川花火大会は、赤川河川敷の広さを活用した全長約2kmにわたる会場と、打ち上げ幅700mでの巨大花火の演出などで全国でも珍しい花火大会で知られており、毎年30万人以上の観客が訪れている。 ・秋には月山ワインまつりが開催されるほか、家族やグループでの芋煮会の会場として利用され、
--



小学生のサッカー大会
（赤川河川緑地）

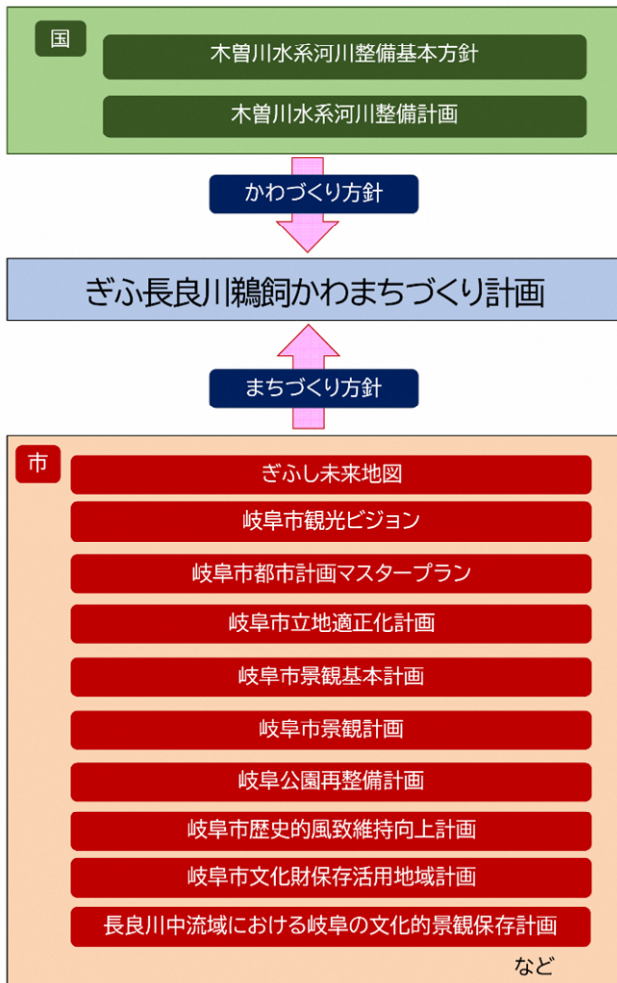


多くの観光客が訪れる赤川花火大会
（赤川河川緑地）

かわまちづくり計画書の構成

2. 水辺とまちづくりに関する基本方針

関連計画におけるかわまちづくり計画の位置づけ



例) ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画より

2. 計画対象範囲

本計画の対象エリアは、加古川中央市民病院付近から加古川バイパスまでの一級河川加古川の左岸一帯とする。また、加古川駅周辺を含むエリアを関連エリア (P8 に記載) とする。

<加古川市かわまちづくり対象エリア>



3. 課題・必要性

対象エリアは、集客施設が立地する市街地を經由して行くことができる、加古川駅から最も近い加古川の河川敷である。

「ひと」がやすらぎ、「まち」が賑わい、「自然」で憩える“ウェルネス都市加古川”の快適拠点として、また回遊性の高いネットワークを形成するための新たな目的地として期待される。

これらの期待を実現していくためには、上位計画を踏まえ、周辺地域の良好な景観や自然環境を活かしながら、水辺の自然環境の保全と活用を目指した様々な取組を実践していくとともに、まちなかとかわまちづくり対象エリアとの連携強化を図るため、まちなかや周辺地域の集客施設とかわまちづくり対象エリアを結ぶ多様なネットワークの形成、回遊性を向上

例) 加古川市かわまちづくり計画より

基本方針、個別施策

基本方針	個別施策
守る 川がもつ本物の魅力と川文化を守る	<ul style="list-style-type: none"> ○国と連携し、長良川流域の文化の交流拠点として河川整備計画に基づいた河川整備に取り組む ○生態系をはじめ、自然環境や景観の保全に注視し、楽しむことのできる空間形成に取り組む ○地域の営みと調和し、歴史や文化を語り継ぐことのできる空間形成に取り組む
親しむ 川がもつ本物の魅力に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ○過去から脈々と受け継がれてきた川本来の魅力を知り、実感できる空間形成に取り組む ○川本来の魅力を、現代の志向に合わせた活用により、本物が息づく空間形成に取り組む
創る 川の新たな魅力を創る	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の川の魅力に加え、新たな視点や隠れた魅力の掘り起こしなどにより、市民や観光客を迎える本市の顔としての空間形成に取り組む ○老若男女問わず、あらゆる人々が本市の魅力を実感し、繰り返し訪れていだけるよう、岐阜市の歴史・文化溢れる「まちなか」と「水辺」をつなぎ、一体感をもった空間形成に取り組む

例) ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画より

かわまちづくり計画書の構成

3. ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
①赤川水系赤川
2. 施策の実施範囲
①赤川 鶴岡市（鶴岡、櫛引地区）
3. 施策概要
①かわとまちのネットワークの強化を図る <ul style="list-style-type: none"> 観光施設などの拠点を周遊できる導線を位置づけ、広域的な連携を促進する。 ⇒案内看板などによる施設への誘導／散策やジョギング、サイクリングコースの設定 レンタサイクル等による周遊性の向上 ②多様なイベント利用の促進。 <ul style="list-style-type: none"> 水辺空間で行う魅力のある新たな集客イベントを企画し、通年での利用増進を図る。 ⇒桜づつみでの桜まつりの開催／安全面や利便性を向上させ花火大会やワイン祭りの継続実施 ／冬期間の新規イベントの開催／ケータリングカー等による日常的な物販営業／釣り大会や 自然体験学習など水と触れ合うイベントの開催 行政と市民団体等が連携しながらHPやパンフレットを作成し情報発信の強化と充実を図る



例) 鶴岡市赤川かわまちづくり計画より

かわまちづくり計画書の構成

4. 支援整備内容の概要

1. 河川名
石狩川水系千歳川
2. 整備範囲
千歳川下流（江別市条丁目地区・大川通地区）
3. 整備内容
外輪船（旧岡田倉庫）を条丁目地区・大川通地区における地域観光・まちづくりの拠点に位置づけ、地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信するとともに、市民に日常的に水辺を利用してもらい、水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいを創出するため、江別市条丁目地区・大川通地区の水辺整備を実施します。
【ハード施策】
1) 千歳川の水辺整備（国：側帯、階段護岸、高水敷整正、河川管理用通路、アクセス通路） 外輪船（旧岡田倉庫）を河川空間の利活用拠点（「かわ」と「まち」の結節点）として、外輪船（旧岡田倉庫）と水辺をつなぎ「かわ」「まち」間の動線を創出するための水辺整備を実施する。
2) 条丁目地区の施設整備（江別市：拠点整備、多目的広場、駐車場、街灯・照明、水道・電気施設） 水辺の観光ポテンシャル・利便性向上に向けて、子どもたちが安心して遊び、市民が憩い愛着を持って接することができる河川空間の創出のための整備を実施する。
3) 周遊コース案内看板等の整備（江別市） 「まち」から「かわ」への観光動線を創出するため、水辺—旧北陸銀行江別支店等の歴史的建造物—JR 江別駅等の拠点施設をつなぐ観光周遊コースへ案内・誘導する看板・路面標示を整備する。

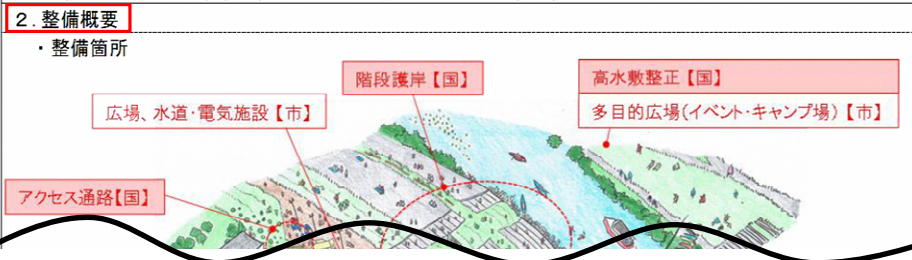


例) 江別市かわまちづくり計画より

かわまちづくり計画書の構成

5. ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名
千歳川下流（江別市条丁目地区・大川通地区） 江別市かわまちづくり



3. 整備の必要性、有効性

石狩川と千歳川が合流する当該地区は、明治時代に始まった北海道の開拓において主要な交通手段だった小樽～幌内を結ぶ鉄道（明治 15 年開通）と上流へ向かう舟運の結節点であり、江別港と呼ばれていました。このため明治後半～大正にかけて繁栄し、共同の船着場や旧岡田倉庫を含む倉庫群が建設されました。昭和期においても官公庁、製紙工場、映画館や旅館等により賑わっていましたが、舟運の衰退や幹線道路の移設等により賑わいは落ち着き、現在では、歴史的建造物が数多く点在する地区となり、外輪船（旧岡田倉庫）は演劇・コンサート・講演会等の各種イベントに利用されています。

現在、千歳川では、昭和 56 年に発生した未曾有の洪水を安全に流下させることを目的に治水事業が進められています。当該地区の江別市街築堤は背後に市街地を有する重要な区間ですが、堤防整備に伴い外輪船（旧岡田倉庫）の移設が必要となり、移設後の利活用方法を早急に検討する必要が生じました。一方、江別市は、大都市札幌に近いという地理的要因等から通過型観光が多い状況でしたが、市内の観光資源を生かし道内や近隣市町村からの誘客が重要となっており、歴史性等の特色を生かした土地

4. 整備の実現方策

【関連事業の整備計画】

- 江別市では「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、平成 27 年度から 5 ヶ年計画で観光振興による交流人口の増加と経済活性化を目指しています。具体的な事業として、大学及び学生

【整備工程】

整備項目等	実施主体	R4	R5	R6	R7	R8	R9
かわまちづくり協議会・勉強会	江別市	深層組織・実施事業の具体化検討		深層組織・実施事業の交渉・評価			
旧岡田倉庫（外輪船）移設	江別市	←					
条丁目地区施設整備	江別市	←					
周辺コース・市内看板等	江別市	←					
水辺整備	江別河川事務所	←					

5. 推進体制

令和 2 年 11 月に江別市、学識経験者、地元関係者の連携の下、江別市街築堤整備に伴い移設を要する外輪船（旧岡田倉庫）の利活用方法を検討し、外輪船（旧岡田倉庫）周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議することを目的とした「江別市かわまちづくり協議会」を設立しました。

令和 3 年 1 月から、江別市と河川管理者による「江別市かわまちづくり勉強会」を開催し、より具体的な事業計画の策定と実践に向けた議論・検討等を推進しました。

現時点で、河川占用許可準則第 22（都市・再生等利用区域の指定）に基づく営利活動を行う民間事業者の参入が見込まれており、事業を遂行・運営する実行組織の発足を目指します。

6. 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

- 地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上と地域のブランドイメージ定着を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。
- 子どもたちが安心して遊び、市民が憩い愛着を持って接することができる河川空間を整備することにより、条丁目地区・大川通地区の地域づくりに寄与します。

②維持管理計画

- 外輪船（旧岡田倉庫）及び水辺の整備施設の内、河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理については、河川管理者が行います。
(国：河川管理用道路、護岸等)
- 非常時（洪水氾濫時及び事後）における河川空間等の管理については、河川管理者が行います。
- 河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃等に関しては、江別市、地元関係者、民間事業者等からなる実行組織）及び河川管理者が連携して実施します。
- 維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していきます。

7. 特徴

当該地区は、石狩川・千歳川（当時は夕張川も）の合流点であり、さらに明治 15 年までに開通した鉄道および江別駅設置により、当時の主要な交通手段である舟運と鉄道の結節点となり、江別港と呼ばれていました。上流からは船で農産物（小豆、大豆、麦、雑穀）や木材を運び、当地区で鉄道へ積み替えて札幌や本州へ、下流からは生活物資（米、味噌、砂糖、酒、衣服、薬品、石材、鉄）を鉄道で運び、当地区で船に積み替えて石狩川や千歳川（夕張川）の上流へ運んでいました。

これにより、明治 30 年代後半から大正にかけて、雑穀（麦、豆、そば、種、肥料）を扱う商人が増え、共同の船着場や外輪船（旧岡田倉庫）が建設されたほか、明治 35 年には江別駅～千歳川の船着場

例) 江別市かわまちづくり計画より

かわまちづくり計画書の構成

6. その他特筆すべき事項

協議会等の開催概要、社会実験状況、アンケート調査結果など

協議会の開催概要の例

■赤川かわまちづくり協議会（平成29年9月、平成30年7月、11月：3回開催）
地域団体、自治会、NPO法人、学識者等で構成される協議会を設立し、赤川かわまちづくりの方向性や、整備メニュー、維持管理などについて協議を行った。



第1回協議会
計画の方向性の検討や赤川に関する意見交換を行った。



第2回協議会
これまでの経過説明や、整備メニュー案、これからの進め方に対する協議を行った。

例) 鶴岡市赤川かわまちづくり計画より

社会実験状況の例

○長良川まんぶくクルーズ

民間事業者を中心とした実行委員会が、水辺空間を活かした賑わいの創出及び地域活性化のための社会実験として実施した。当市を訪れる観光客等の滞在期間の延長並びに満足度向上への取り組みとして、鵜飼観覧船乗船場付近にて集客イベントを開催し、観覧船に係留し船内を飲食場所として提供するなど相乗効果によるにぎわいの創出が図られた。

実施時期：平成31年4月27日、28日、29日、令和元年5月3日、4日、5日の2回開催

場 所：鵜飼観覧船事務所周辺及び乗船場付近

内 容：マルシェ型イベント（鮎の塩焼き、高校生による地産地消スイーツなどの販売、金魚すくいなどの子供向け体験）、鵜飼観覧船の係留・解放

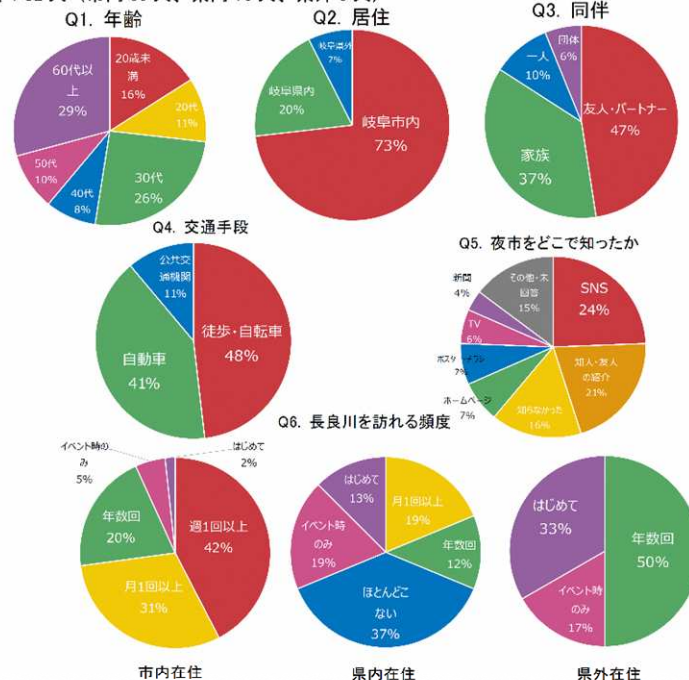


例) ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画より

アンケート調査結果の例

◆アンケート調査の実施

回答：82人（市内60人、県内16人、県外6人）



例) ぎふ長良川鵜飼かわまちづくり計画より